

薬局を舞台に描く人間ドラマ

薬剤師経験生かした漫画が人気

処方箋を持ってきた患者の何気ない発言や表情から病状を察知し、時には破天荒な手段を使ってでも患者の命を救う。口は悪いが頭はキレる主人公のイケメン薬局長と天然ボケの新人薬剤師の凸凹コンビが様々な難題を解決していく「月刊! スピリッツ」(小学館)で連載中の漫画「処方箋上のアリア」の作者は、漫画家になる前は薬剤師として勤務していた三浦えりかさんだ。今年2月に念願の単行本1巻が発売され、4月号では表紙巻頭カラーを飾った。「薬剤師が何を知っているのかを描くことに重点を置いている。他職種にも私たちのことを知ってもらい、薬剤師にできることが増えればいいなと思う」と語る。



漫画家

三浦えりかさん



とあるバーカウンターの男女。男性が女性に「ここのチャイナブルー美味しいんだってさ」とお酒を勧め、女性がグラスを持とうとしたそのとき、1人の青年が話しかける。「デートレイプドラッグによく使われるフルニトラゼパムの錠剤は、水に入れると青くなるんだよなあ」

男が否定すると、「じゃあアンタが飲んでみるか?」と詰め寄り、男の顔にチャイナブルーを浴びせる。激情した男が「何なんだよ、お前」と叫ぶと、青年は振り向きざまに言い放つ。

「俺?ただの薬剤師だよ」

主人公が初めて登場するシーン。正義のヒーローだ。処方箋上のアリアでは、1巻冒頭から話がスリリングに展開する。

「今何が問題になっているのかを漫画に落とし込みたいくて、勉強は絶えずしている。ニュースやメルマガなど、特にお薬に関する話題は敏感にチェック

し、それが趣味みたいになっている」と三浦さんは語る。

漫画の舞台は、主人公と新人薬剤師が勤務する「亜理亜薬局」。カフェイン中毒やかぜ薬の過剰服用、認知症など、処方箋を持ってくる様々な患者の悩み(8ページへ続く)

過剰摂取など身近な話題扱う

患者の内面リアルに描写

新卒生限定10泊12日
ハワイ研修実施! 5月中旬!

関西圏を中心に全国へオレンジ薬局を展開

初年度年収

450~550万

希望店舗での勤務OK! 働き方次第で高収入も可能! あなたの頑張りを評価します!

- (株)プチファーマシスト
- (株)オレンジファーマシー
- (株)東京オレンジ薬局

全国に131店舗展開中!!

渋谷駅前店・池袋西口店・永田町・中津店
阿倍野店・芦屋店・菊川店・北浜店 等

インターンシップ参加者募集

オレンジ・元気薬局

検索

薬剤師
国家試験
対策.com薬剤師を目指す薬学生のための
国家試験対策支援サイトです

ご登録・ご利用完全無料

be89314

検索